

地域活性化協議会が主体となった乗合ワゴンの運営体制の構築

指導教員 公立小松大学 国際文化交流学部 准教授 中子富貴子・小原文衛
参加学生 藤田ゆき菜、道田夏生、山越風紗、西村彩花、他「ぶらり小松サークル」メンバー

1. 活動の成果要約

月津校下地域活性化協議会が始めた住民乗合ワゴンのスタートに合わせ、この事業として当初計画した活動内容は概ね実施できた。

- ①利用者ニーズ調査
- ②学生を交えたワークショップの開催
- ③報告書作成（利用者ニーズ調査やワークショップの結果等）
- ④地域住民に向けたPR（お出かけマップ作成）

2. 活動の目的

この事業の背景にある課題は、公共交通空白地域を抱える地域における高齢者等の移動や外出の確保、生きがいの持てる環境づくりである。そのため、月津校下地域で活動が始まった乗合ワゴンの運行と継続的活動をどのように進めていくかについて以下の3点が具体的な目的となった。①月津校下地区における乗合ワゴンの導入と運営に関わる、行政、地域、大学等も含んだ連携・仕組み作りの検討、②住民自身の活動・主体的でボランティアな取り組みの促進・住民間でのコミュニケーション促進、③乗合ワゴン運行の実証的成果の検討・提案。

3. 活動の内容

<地域の現状の分析>

- 月津校下は、小松市の南部地区に位置し、7町で構成。人口約3,400人。
65歳以上高齢者数は約1,000人（29%）、75歳以上約500人。
- 小松市が設立を推進している地域運営組織として「月津校下地域活性化協議会」を発足し、これからのまちづくりを考えようと活動を開始した。
- 月津校下地域活性化協議会の重点（まずは取り組みたい）テーマとして、高齢者の移動手段の確保が挙げられている。
- バス路線はあるものの便数が少ないことや、バス停がない町内もある。
 - ・月津地区では、平成31年4月より、路線バスが5便/日→3便/日に減便。
(理由：利用者数が少ないことやバスの運転手不足)
- このため、高齢者が買い物や病院に行くことが不便。(そもそも地区内にスーパーがない)
- 月津町の民生委員の協力の元、地元住民にヒアリングを行いながら運行ルートを検討。
- まずは、月津町から実験的に運行をスタートし、今後は他町（扇原町、四丁町、月美丘、額見町、矢田町、矢田新町）へと運行エリアを拡大していく予定。(2019年9月2日運行スタート)
- 現在、月津町では高齢者6名がドライバーとしてワゴンを運行しており、地域住民の住民相互の支え合いによる乗合いワゴン運行により、地域の繋がりが深まるほか市内における先進モデルとして他地域への展開につながることを期待される。

<活動実績>

2019年9月～
乗合ワゴンの運行



北國新聞 2019.9.3

2019年8月～9月
月津町まちあるきと探索
<学生による活動>

2019年11月7・8日
先進地視察
・名古屋大学
・愛知県豊田市



2019年11月18日
ワークショップ
・ワゴン運行経過報告
・学生のまちあるき報告
・視察報告



2019年12月
ワゴン利用者・登録者アンケート

調査結果の分析 (大学)

2020年1月25日
ワークショップ
・学生報告
・ワゴン利用の調査報告
・グループディスカッション

2020年1月
他地域の乗合バス視察
<学生による活動>



今後

- ・乗合ワゴンの継続運行
- ・他地区への展開

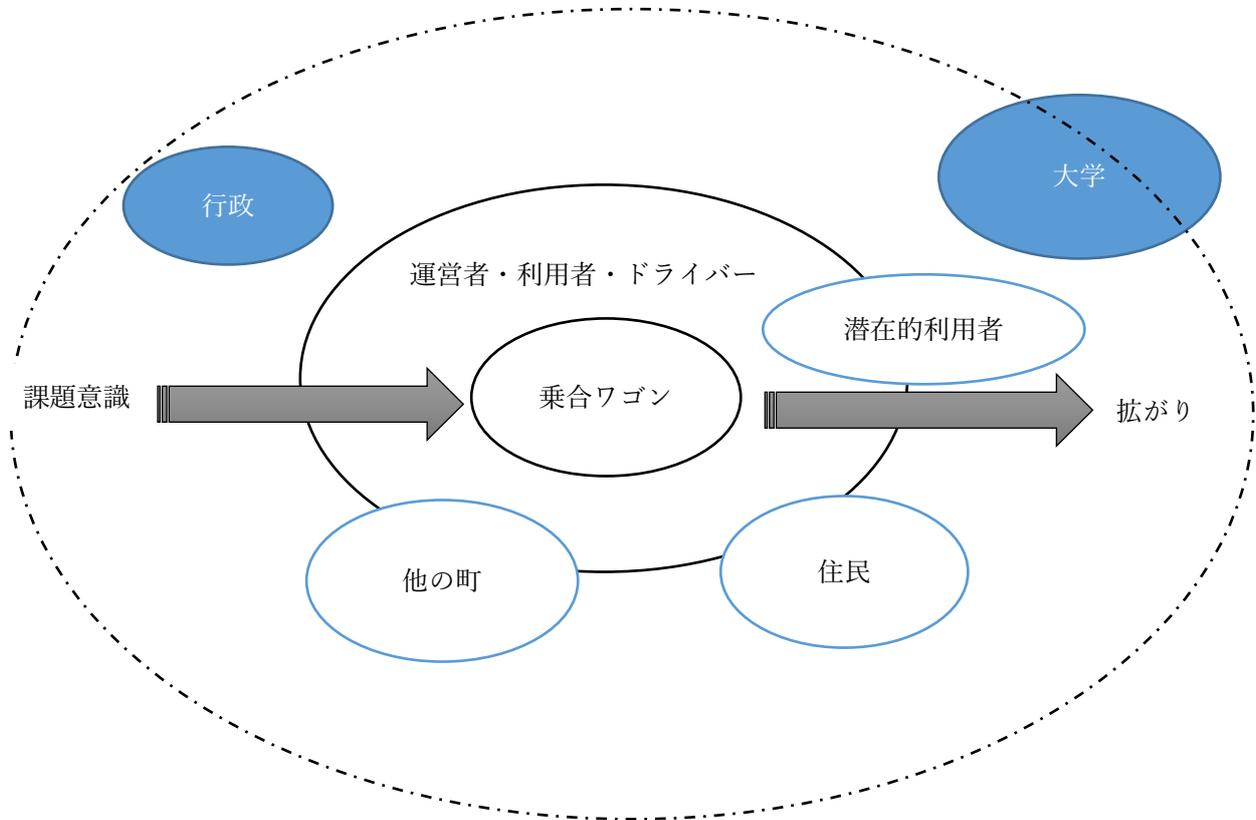
- 2020年2月以降
- ワゴン PR
 - ・PR冊子の発行・配布
 - ・お出かけマップ作成

4. 活動の成果

目的①：月津校下地区における乗合ワゴンの導入と運営に関わる、行政、地域・大学等も含んだ連携、仕組み作りの検討

目的②：住民自身の活動、主体的でボランティアな取り組みの促進、住民間でのコミュニケーション促進

目的③：乗合ワゴン運行の実証的成果の検討・提案



<貢献事項>

- ・ワゴン運行に直接関わる人だけでなく、行政、住民、大学等が課題意識を共有する場を提供できた。
- ・ワゴン運行によって、地域課題が拡がりをもった現代の社会的な課題であることが認識できた。
- ・利用者ニーズ調査、実績調査によって、ワゴン運行の意義が確認された。
- ・若年層にも地域の課題が共有された。

<本事業の成果>

- ・乗合ワゴンの継続に向けた課題の洗い出しができた。
- ・利用者の実績調査、分析の結果を得た。

5. 次年度の計画

今年度に始まったワゴン運行を継続的に行うため、体制や仕組みを捉え直し、月津校下の他町内への展開を図る。

6. 活動に対する地域からの評価

先生方や学生の皆さんには、先進地域への視察やワークショップの開催、お出かけマップ作成など多岐にわたり乗合ワゴン推進に向けて取り組んでいただいた。また、本事業に参画いただき、今後の方向性も見え、引続きご協力をいただきながら持続的な体制づくりを検討していきたいと思っている。